

草加市公共施設に関する市民ワークショップ かわら版

発行：草加市総合政策部資産活用課 /2017 年 2 月 /第 3 号

第 3 回市民ワークショップを開催しました。

参加者のみなさんの地域への思いが伝わる熱い意見交換が行われました。

- 第3回ワークショップでは、小中学校以外の公共施設にあると良い機能について話し合いました。
- 地区ごとの第3回ワークショップの参加者数は以下のとおりです。

日時	場所	対象地区	参加者数
1 / 19 (木) 19～21 時	高砂コミュニティ センター	草加東部	13 人
		谷塚東部	
1 / 20 (金) 19～21 時	柳島コミュニティ センター	草加西部	7 人
		谷塚西部	
		谷塚中央	
1 / 29 (日) 12 時 45 分～ 14 時 45 分	原町コミュニティ センター	新田西部	24 人
		草加安行	
1 / 30 (月) 19～21 時	文化会館	新田東部	33 人
		草加川柳	
		草加稻荷	



第 3 回市民ワークショップではこんなことを話し合いました。

小中学校以外の公共施設でできたら良いことについて話し合いました

- 第3回ワークショップでは、第2回で話し合っていた小中学校を使ってできると良いことを踏まえて、学校以外の公共施設でできると良いことについて意見交換をしました。

- 小中学校以外の公共施設について話し合いをした理由は以下の3点です。

- ①コミュニティセンターや公民館・文化センターは市民にとって最も身近な公共施設であること
- ②今後の公共施設のあり方を考える上で、学校施設以外の公共施設の多機能化についても検討していく必要があること
- ③小中学校では現在の建物や敷地などの空間をイメージしながら議論していただきましたが、教育の場である学校という制約もあり、民間などが提供する機能などについては意見が出にくかったこと

- 意見交換では、草加市内にあるすべての公共施設を対象に、それらで「できると良いこと」と、その施設でできると良いと考えた「理由」について意見交換しました。

- できると良いことを考えるにあたっては、現在の施設の敷地の大きさや使われ方などは考えず、こんなことができればいいという理想から発想していただいたほか、以下の2点を念頭に置いて意見を出していただきました。

- ①色々な人が利用したくなるにはどのようなことができるといいか
- ②「まち」や「ひと」が元気になるためにはどのようなことができるといいか

皆様のご意見はしっかりと活用していきます。

- 今回、皆様からいただいたご意見は、すぐに実行に移せるものではありませんが、記録として残し、ホームページで公開し、今後、公共施設についての検討を行う際は貴重な材料として役立てていきます。
- 公共施設等総合管理計画については、今回の3回のワークショップでの意見も踏まえて加筆・修正し、来年度にパブリックコメントで市民の皆様からの意見をうかがう予定です。

ワークショップで話し合われた主な意見

カフェや自由に使える空間など利用者の交流につながる機能が求められている

- 市民にとって身近な施設であるコミュニティセンターや公民館・文化センターでは、カフェや交流スペースなど、様々な年代の人達が特に目的がなくても気軽に立ち寄れて、交流できるような場があるといいという意見が多くなっています。また、図書の貸し出しや入浴機能、防災機能などの意見も出されました。
- その他の施設でも、中央図書館やスポーツ施設などでカフェが求められており、交流やリフレッシュの場としてカフェのニーズが高くなっています。
- 今後建替えが予定されている市役所については、市民が気軽に立ち寄れる空間や美術・音楽などが気軽に楽しめる場、草加の食文化の発信基地ともなる食堂やカフェなどがあるとよいという意見もありました。

■主な意見

	できると良いこと	その理由
公民館 文化センター コミュニティ センター	○カフェ	○集まって話ができる（周辺にカフェが少ない）。 ○おいしいコーヒーなどが飲めることで人が集まる。
	○交流スペース ○自由に使える空間	○交流ができて、情報も得られる。 ○世代間交流による高齢者の生きがいづくり。
	○より充実した図書館・図書室	○子どもから高齢者まで様々な人が利用できる。 ○市内に図書館が少ない。 ○専門的な勉強やサークル活動等の資料探しに使える。
	○入浴施設	○コミュニティ形成につながる。ゆっくり世間話ができる。 ○健康にもつながる。
	○防災機能 （宿泊機能・防災倉庫）	○災害直後にけが人や一人で動けない高齢者、小中学校までいけない人のために。
中央図書館	○カフェ	○コーヒーを飲みながら本が読みたい。 ○交流にもつながる。
	○談話室	○読書や勉強以外の利用もできるように。
スポーツ施設 多目的広場	○カフェ	○スポーツの後に交流できる。
	○足湯・入浴施設	○健康維持や交流につながる（足湯なら安価に整備可能）。
市役所・サービスセンター	○（障がい者が働く）食堂やカフェ	○交流の場となる。障がい者に働く場を提供できる。 ○市の名産を使うことで食文化の発信ができる。
	○コンビニ、他の行政機関	○利便性が高まる。
	○気軽に立ち寄れる空間	○市民の交流につながる。

その他にこんな意見もありました。

- 市民がよく利用する施設には託児機能が必要（コミュニティ施設・図書館・市役所・スポーツ施設など）。
- 防災機能は最優先ですべての公共施設が持つことが必要。
- 無料のWi-Fi環境がすべての施設にあれば若者の利用につながる。
- 基本的にはいつでも誰でも使え、利用の自由度が高いことが大切。
- 施設の規模や配置、アクセスが大切。
- 交流のための空間では、見知らぬ人同士の交流を促してくれる人がいないと交流は生まれない。



※当日の会議で出された全意見をまとめた資料が市HPの以下のアドレスにあります。興味のある方はぜひご覧ください。
<https://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1211/a03/a01/>

ご参加ありがとうございました。